

可燃性廃棄物の追加火災対策の進捗状況について

2018年7月23日



東京電力ホールディングス株式会社

1. 伐採木屋外集積エリアの火災対策の状況

対策			対応状況
火災発生防止	自然発生する火災	自然発火	<ul style="list-style-type: none"> ● 積載高さを5 m未満に制限（通気性確保） ● 積み上げた山（幹を除く）の内部温度を監視
		落雷	<ul style="list-style-type: none"> ● 横倒しになっている伐採木に落雷する可能性が極めて小さいため、対応不要と判断
	人為的な火災	もらい火	<ul style="list-style-type: none"> ● 伐採木屋外集積エリア近辺の5・6号西側の道路土手にて火災事例があるため、防火帯を設置
早期検知			<ul style="list-style-type: none"> ● カメラによる火災感知・発報機能を有する自動火災監視システムを設置
延焼防止			(もらい火と同じ)
消火活動			<ul style="list-style-type: none"> ● 自衛消防隊体制を整備 ● 初期消火用消火器、防火水槽（構内共通）防火水タンク（一時保管エリア専用）を設置 ● 防火水槽（構内共通）を追加設置中

2. スケジュール

- ◆屋外火災監視カメラは設置完了、現在運用中
- ◆一時保管エリアH、Mの防火帯設置完了
- ◆一時保管エリアG及び一時保管エリアTに、**防火水槽を追加設置中**
- ◆増設雑固体廃棄物焼却設備にて2020年度焼却開始／2024年度焼却完了の計画

実施項目		2016年度		2017年度		2018年度	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期
屋外火災監視カメラ設置		仕様検討	設計・製作 据付・試験 運用開始～				
防火帯設置	一時保管エリアH		2月に設置完了				
	一時保管エリアM			6月に設置完了			
防火水槽追加設置	一時保管エリアG			7月に設置完了			8月に設置完了予定
	一時保管エリアT	散水車配備済み					8月に設置完了予定

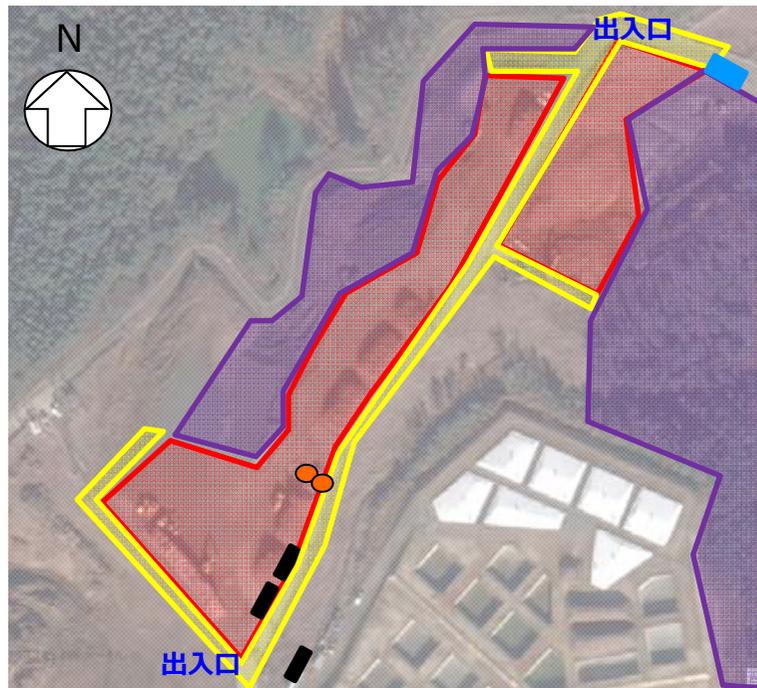
※第6回特定原子力施設放射性廃棄物
規制検討会（2017年7月）以降追加

【参考】一時保管エリアG 及びHの場所



3. (1) 防火水槽追加設置状況 (一時保管エリアG)

- : 伐採木 (幹、根) ■ : 防火帯
- : 傾斜地 ● : 消火器
- : 既存の防火水槽 (40m³タンク)
- : 追設防火水槽の予定地



提供 : ©2016 DigitalGlobe, Inc., NTT DATA Corporation

【火災対策】

- ・積載高さを5m未満に制限
- ・温度計による監視
- ・消火器、防火水槽、防火帯の設置
- ・巡視

【追設防火水槽の予定地】



【参考 : 既存の防火水槽 (40m³タンク)】



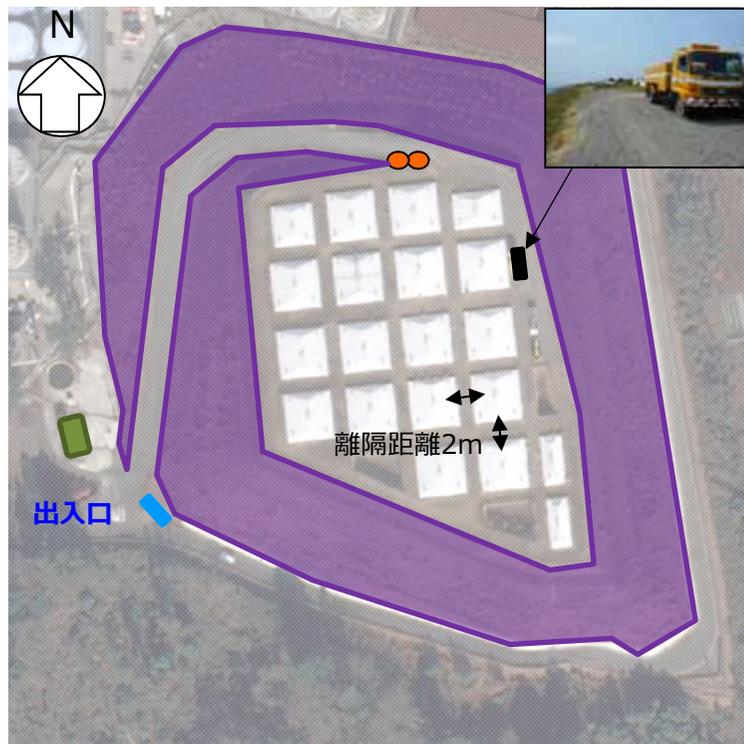
3. (2) 防火水槽追加設置状況 (一時保管エリアT)

- : 一時保管槽 (枝葉・根) ● : 消火器
- (紫) : 傾斜地 ■ (緑) : モニタリングポスト-8
- (黒) : 散水車 (10m³タンク)
- (青) : 追設防火水槽の予定地

【火災対策】

- ・ 1集積毎に2mの離隔距離を確保 (延焼防止)
- ・ 温度計、ガス濃度計による監視
- ・ 散水車、消火器設置
- ・ 巡視

【追設防火水槽の予定地】



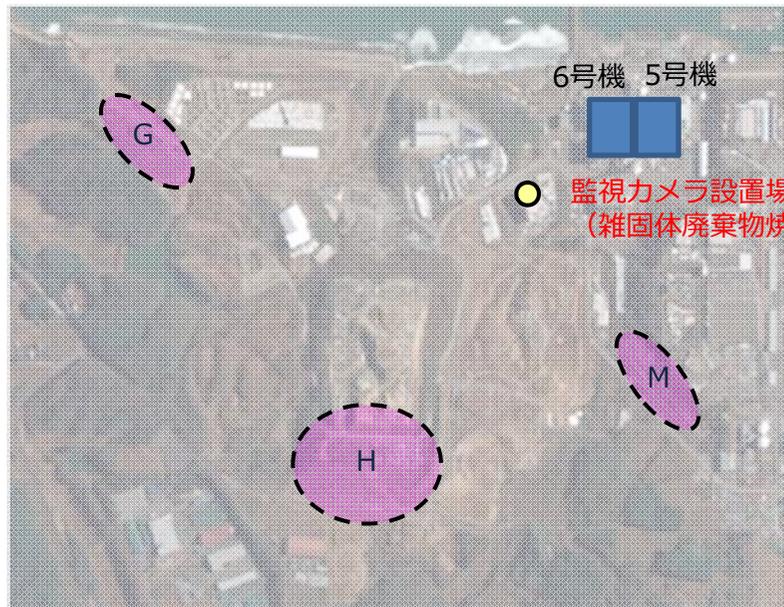
※防火水槽設置後、散水車は撤去予定

提供 : ©2016 DigitalGlobe, Inc., NTT DATA Corporation

参考1. (1) 屋外火災監視カメラの設置

2017年4月より監視システム運用開始

☞ ◀ : 伐採木一時保管エリア



提供 : ©2016 DigitalGlobe, Inc., NTT DATA Corporation

伐採木一時保管エリアの配置図

【火災検知】

- 監視カメラにより、伐採木一時保管エリア全体を自動で監視・検知
- 監視範囲で、約1m×約2mの炎及び煙を検知

【火災通報】

- 所内5箇所※に監視PCを設置
- 火災を検知した位置を監視PCにて確認し、火災であれば消火対応実施

【監視方法】

- 監視カメラ2台、補助カメラ2台の計4台で敷地北側を監視
- 監視カメラで火災を検知した場合、監視PCにて警報解除するまで現場の監視を継続。(警報解除後は、補助カメラでの火災現場の確認が可能)

※「免震重要棟 緊急時対策所」、「免震重要棟 1～4号当直室」、「5・6号機 中央操作室」、「新事務本館 緊急時対策室」、「新事務本館 東電フュエル事務所」の5箇所

参考1. (2) 屋外火災監視カメラの設置

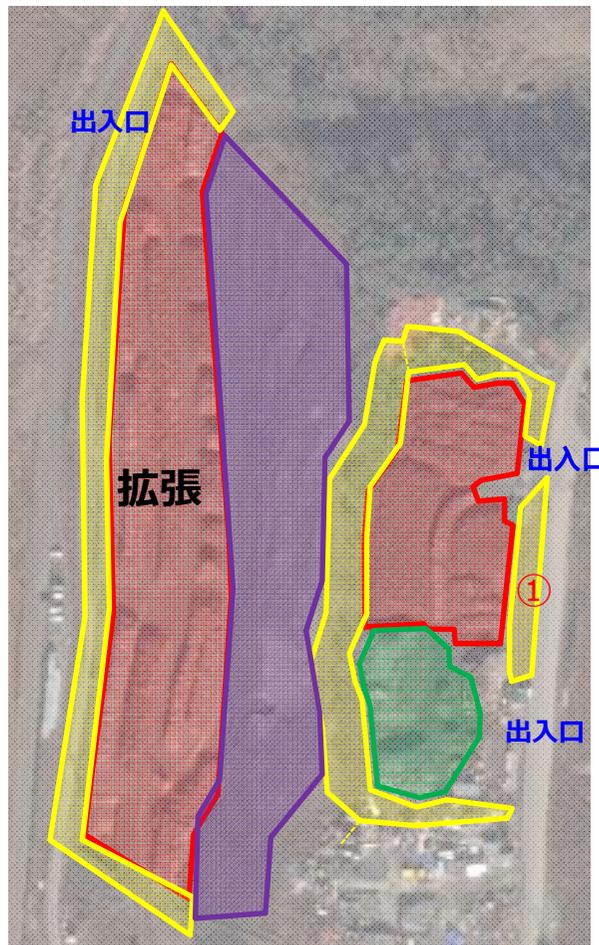
- 雑固体廃棄物焼却設備屋上に設置したカメラの画像から炎・煙を検知
- 監視状況は、新事務本館 緊急時対策室等に設置した監視PCで確認可能

監視PC画像



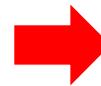
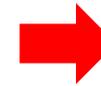
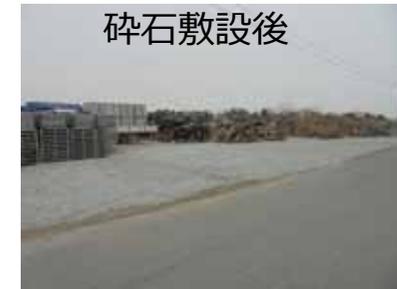
参考2. 防火帯設置状況（一時保管エリアH）

- : 伐採木（幹、根）
- : 木材
- : 防火帯
- : 傾斜地



提供：©2016 DigitalGlobe, Inc., NTT DATA Corporation
伐採木一時保管エリアHの配置図

【もらい火対策（延焼防止）】
伐採・草刈後、碎石敷設を実施



③④は、傾斜地又は人・重機等の立入が出来ないため碎石敷設せず。

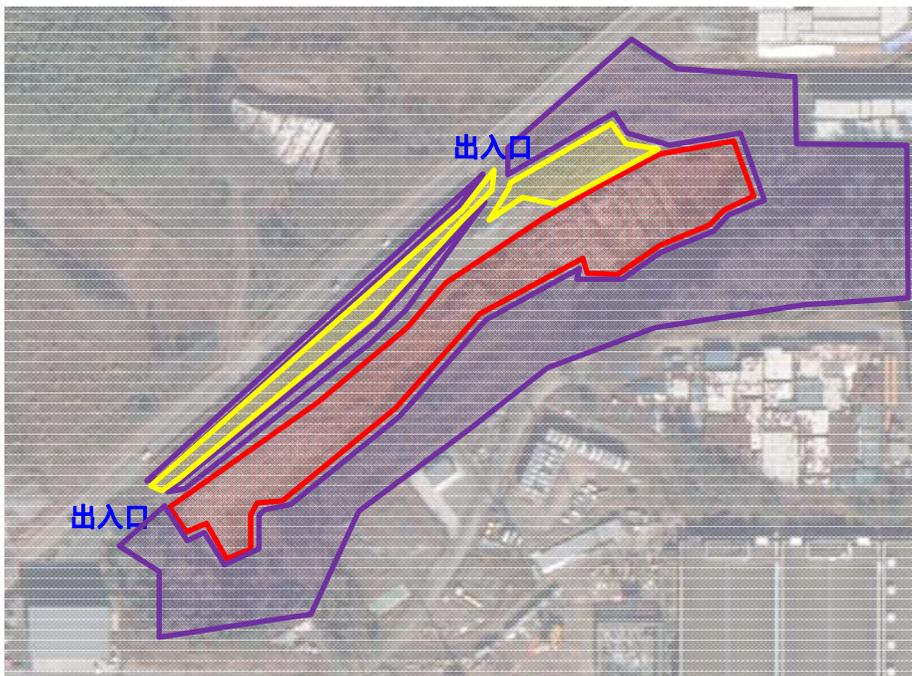
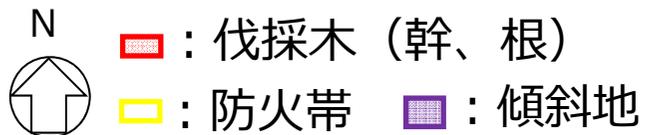
【新設 幹・根一時保管エリアの火災対策】

既存の一時保管エリアと同様の管理を実施

- ・積載高さを5m未満に制限
- ・温度計設置による温度監視
- ・巡視
- ・消火器、防火帯設置



参考3. 防火帯設置状況（一時保管エリアM）

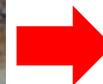


提供：©2016 DigitalGlobe,Inc.,NTT DATA Corporation

伐採木一時保管エリアMの配置図

【もらい火対策（延焼防止）】
伐採・草刈後、砕石敷設を実施

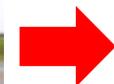
① 砕石敷設前



砕石敷設後



② 砕石敷設前



砕石敷設後



傾斜地については、砕石敷設せず

参考4. 新設エリアの火災対策状況（一時保管エリアG）

- N
-  : 伐採木（幹、根）
 -  : 防火帯
 -  : 傾斜地
 -  : 追加分の防火水槽（40m3タンク）



提供：©2016 DigitalGlobe, Inc., NTT DATA Corporation

伐採木一時保管エリアGの配置図

【火災対策】

既存の一時保管エリアと同様の管理を実施

- ・積載高さを5m未満に制限
- ・温度計設置による温度監視
- ・巡視
- ・消火器、防火帯設置



【追加火災対策】

更なる消火対策（消防水利の確保）として、既存の防火水槽1基の他に2基を設置済



既存の防火水槽1基



防火水槽2基設置済